

① ねらい

- 先入観や思い込みによって、人をひとくくりに判断するのではなく、その「人」自身を理解し、認め合うことの大切さに気づく。
- 固定観念→偏見→差別という意識から行動化へ向かう心の仕組みについて理解する。

② 学習プログラムの流れ

<実施時間：75分>

流れ	分	学 習 活 動	資料・準備物等
はじめに	5	1. ファシリテーターの自己紹介	3つの約束「参加」「尊重」「守秘」のカード
導 入	5	2. ワークショップの進め方について 3. アイスブレイキング ・「アイスブレイキングシート」で、後だしジャンケンを行った後、5人組をつくる。(5人×6班)	
展開1	5	4. 『話の素材』を全員に配り、全体の中で、イヌ・ネコ役各1名を決め、代表者が読む。	
展開2	10	5. 各自の「固定的な見方」や「決めつけ」をキーワードに、自分のエピソードを思い出し、グループで話し合う。(悲しい思いをしたり、させたりしたこと) ※思い出せない人のために、資料6を掲示する。	資料6
	15	6. 各自の「固定的な見方」や「決めつけ」は、どのように植えつけられたかをふりかえる。また、「なぜ『～だ』と決めつけて信用してしまうのか」についてグループで話し合い、模造紙にまとめる。	模造紙、マジック
展開3	15	7. 「固定的な見方」や「決めつけ」により、悲しい思いやいやな思いをしないためにできることをグループで話し合い、模造紙の下段に記入する。	
展開4	18	8. グループで話し合ったことを発表し合う。(3分×6グループ) ※ 資料7をまとめとして使用することもできる。	資料7
まとめ	2	9. まとめとして、ファシリテーターが固定概念(ステレオタイプ)から偏見、差別につながる過程を説明し、理解を図る。	

ファシリテーター：県教育委員会事務局職員



③ 実践してみても(次の方へのアドバイス)

- 展開2の後半では、ファシリテーターが「子どもは固定観念を持っていそうか」「どのように子どもの固定観念が形づくられていきそうか」など、子どもを意識するような問いかけをすると、子育てや家庭教育に役立つ気づきや対応策が生まれやすくなると思います。
- 初めから、「決めつけはよくない」というのではなく、「固定観念や決めつけがなぜいけないのか」ということについて、イヌとネコの会話から考えてみることも一つの方法です。
- **資料6** を配布することで、グループでの話し合いが活発になったようです。

④ 参 考

1 それってホント？

話の素材(学習資料)

イヌ: やあネコさん、あ久しぶり。
 ネコ: (少し元気がない様子)
 イヌ: ネコさん、なんか元気がないみたいだけど、どうしたの？
 ネコ: イヌさんはいよね〜。三日酔ったら主人のことを忘れないほど悪く、芸も兼ねて書いてみんなから書かれてるもんね。それに比べてネコなんか、気まぐれで飼い主のことを裏切るとか、見かけは穏やかでも内心は違うと思われたり、あげくのほては死んだらばけて出るなんて思われたりして、いいことなんて全然ないもんね。
 イヌ: 確かにそんなことを言われることもあるけど、全部のイヌがそうだとは思わないよ。それよりネコさんは、高い所から落ちて足から落ちてけがをしないんだよ。
 ネコ: そんなふうに思われているところもあるみたいだけど、でもそれで高い所から落とされてひどい目に遭った友だちもいるんだよ。
 イヌ: イヌだ、ネコだということで、みんな一緒に見られてしまっているところがあるよね。
 ネコ: ほんと、ほんと。全く逆感な話だよ。みんな一緒に見るんじゃなくて、もっと、一匹一匹のことをちゃんと見てほしいよね。
 イヌ: 同感だね。ところで、ネコさんの血液型は何型？
 ネコ: そんなこと、見たら分かるでしょ。
 イヌ: どれどれ。分かった、B型でしょ。
 ネコ: ちがう、ちがう。真面目で、慎重に行動するA型よ。
 イヌ: え〜。ネコさんがA型？マイペースで計画性がないB型かと思ったよ。
 ネコ: そりゃあひどいね〜。そういうイヌさんは何型？
 イヌ: 見たら分かるでしょ。
 ネコ: ラ〜ん、分かった、O型でしょ。
 イヌ: ちがう、ちがう。器用で、多趣味なAB型よ。
 ネコ: うそー。細かいことを気にせず、負けず嫌いなイヌさんは、てっきりO型かと思ったよ。
 イヌ: なんか笑っちゃうよね。やれA型だの、B型だのと血液型でみんな同じ性格みたいに見えるところがあるけど、他にもそんなことってあるのかなあ。
 イヌ、ネコ: どうですか？みなさんには、私たちに同じような経験はありますか？

資 料 6

こんなことで、決め付けた見方をしていることはありませんか？

○血液型で ○出身県で ○職業で ○性別で ○生年月日で
 ○外国人で ○子どもで ○高齢者で ○兄弟姉妹で
 ○都会と田舎で ○鳥取県の東部と西部で ○外見で
 ○服装や持ち物で ○親の職業や財産で

資 料 7

偏見と差別をなくすために

[決め付けの例]

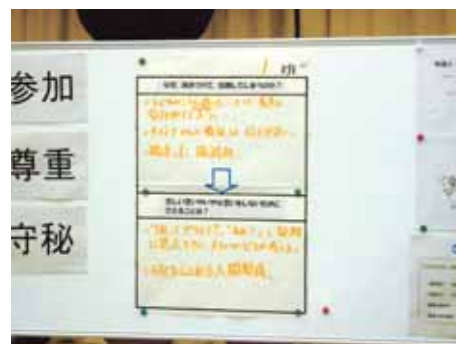
△「○○県民は……だ」
 △「最近の○○は……だ」
 △「社のくせだ……」
 △「男のくせだ……」

[決め付けを見抜く]

○「マイナスイメージで一面的に見るのは間違い」
 ○「あの人は△△にちがいない」「みんな○○だ」と決め付けない。



グループでの話し合い



模造紙にまとめました

その2

それってホント？

実施日：平成22年11月25日 参加者：小学生保護者30名

① ねらい

- 先入観や思い込みによって、人をひとくくりに判断するのではなく、その「人」自身を理解し、認め合うことの大切さに気づく。
- 固定観念→偏見→差別という意識から行動化へ向かう心の仕組みについて理解する。

② 学習プログラムの流れ

<実施時間：75分>

流れ	分	学 習 活 動	資料・準備物等
はじめに	5	1. ファシリテーターの自己紹介	3つの約束「参加」「尊重」「守秘」のカード
導 入	5	2. 「話し合いのルール」確認	
展開 1	5	3. アイスブレイキング 同じ月に生まれた人同士が集まりグループをつくる。	
	10	4. 『話の素材』を全員に配り、全体の中で、イヌ・ネコ役各1名を決め、代表者が読む。	話の素材
展開 2	5	5. 各自の「固定的な見方」や「決めつけ」をキーワードに、自分のエピソードを思い出し、グループで話し合う。(嫌な思いをしたり、させたりしたこと) ※なかなか思い出せない人のために、資料3を掲示する。 ・2～3のグループに発表してもらう。	資料3
	20	6. 各自の「固定的な見方」や「決めつけ」は、どのように植えつけられたかを振り返る。また、なぜ「～だ」と決めつけて信用してしまうのかについてグループで話し合い、模造紙にまとめる。 ・2～3のグループに発表してもらう。	白模造紙1、マジック
展開 3	5	7. 子どもが、固定観念や偏見を持たないようにするために、保護者としてできることをグループで話し合い、模造紙に記入する。	白模造紙2、マジック
	10	8. グループで話し合ったことを発表し合う。(全グループ)	
まとめ	5	9. 「差別意識を生み出す構造」(固定観念から偏見・差別につながる過程)について説明し、理解を図る。	資料4

ファシリテーター：市町村人権教育推進員

③ 実践してみてもいい(次の方へのアドバイス)

- 75分の時間設定でしたが、参加者が「気づき」、「考え」、「行動」するところまで、時間内で押さえることができました。
- 展開2の「どうしてこうした考えが植えつけられるのか」を考える活動につなげるために、展開1の「決めつけ」の内容を模造紙に書いて見えるようにしておくことも考えられます。



- 他の人と違う意見を持つと不安だったり、多数に流されてしまったりするのはなぜかを考えることも、「子どもが固定観念を持たないために」の解決の糸口につながると思います。
- 固定観念がどうしていけないかを話し合うことも大切であると思います。
- まとめの **資料4** の「固定観念」→「偏見」→「差別」の過程への説明は、差別の構造が参加者に分かりやすいと思います。また、**資料4** を使った説明を、展開2の後に行うことも考えられます。

4 参考

1 それってホント？

話の素材 (学習資料)

イヌ: やあネコさん、お久しぶり。

ネコ: (少し元気がない様子)

イヌ: ネコさん、なんか元気がないみたいだけど、どうしたの？

ネコ: イヌさんはいいよね。三日酔ったら主人のことを忘れられないほど愚痴か、夜も寝て置いてみんなから言われてるもんね。それに比べてネコなんか、気づかずに働いてることを要するから、見かけは誰やかも内緒は違ふと思われたい、あつたのは死んだら出てくるなんて思われたい、いいことなんて全然ないもんね。

イヌ: 確かにそんなことを言われることもあるけど、全部のイヌがそうとは思わないよ。それよりネコさんは、高い所から落ちて足から落ちてけがをしないんでは。

ネコ: そんなふうに思われているところもあるみたいだけど、でもそれで高い所から落とされてひどい目に遭った友だちもいるんだよ。

イヌ: イヌだ、ネコだということ、みんな一緒に見られてしまっているところがあるよね。

ネコ: ほんと、ほんと。全く迷惑な話だよ。みんな一緒に見るんじゃなくて、もつと、一匹一匹のことをちゃんと見てほしいよね。

イヌ: 肉感だね。ところで、ネコさんの血液型は何型？

ネコ: そんなこと、見たら分かるでしょ。

イヌ: どれどれ、分かった、B型でしょ。

ネコ: ちがう、ちがう。真面目で、慎重に行動するA型よ。

イヌ: えー、ネコさんがA型？マイペースで計画性がないB型かと思ったよ。

ネコ: そりゃあひどいね。そういうイヌさんは何型？

イヌ: 見たら分かるでしょ。

ネコ: うーん、分かった、O型でしょ。

イヌ: ちがう、ちがう。器用で、多趣味なAB型よ。

ネコ: うそー。細かいことを気にせず、負けず嫌いなイヌさんは、てっきりO型かと思ったよ。

イヌ: なんか笑っちゃうよね。やれA型だの、B型だのと血液型でみんな同じ性格みたいに見えるところがあるけど、他にもそんなことあるのかなあ。

イヌ、ネコ: どうですか？みなさんには、私たちと同じような経験はありますか？

資料 3

こんなことで、決め付けた見方をしていることはありませんか？

○血液型で ○出身地で ○職業で ○性別で ○生年月日で

○外国人で ○子どもで ○高齢者で ○兄弟姉妹で

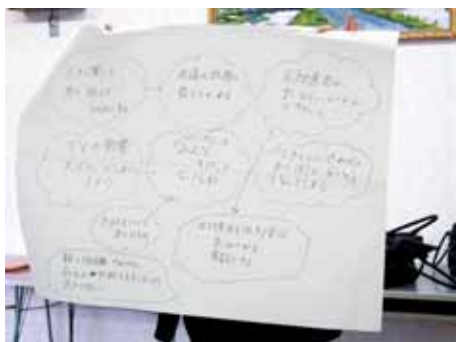
○都会と田舎で ○鳥取県の東部と西部で ○外見で

○服装や持ち物で ○親の職業や財産で

資料 4

差別意識を生み出す構造

① 当社で初めて〇〇大卒のAさんを採用したが、彼女は仕事ができない。	事実
② 〇〇大卒は、仕事ができない。	固定観念
③ 〇〇大卒は、仕事ができないので役に立たない。	偏見
④ 〇〇大卒は、仕事ができず役に立たないから、今後は採用しない。	差別



信用してしまうのはなぜか



意識の変化の過程を説明

その3

おしゃべりカード

実施日：平成22年11月26日 参加者：小学生保護者65名

① ねらい

多様な考えにふれ、自分の人権意識をふりかえるとともに、人権を尊重することをふまえて人とのかかわりを持つことについて考え、暮らしの中で実践する意欲をもつ。

② 学習プログラムの流れ

<実施時間：75分>

流れ	分	学 習 活 動	資料・準備物等
導 入	10	○アンケート記入 1. ねらいと進め方の説明（簡単に） *ねらいについては、「自由におしゃべりしてもらい、どんな意見が出たか発表してください。」程度。	
F 1		2. プラスαで自己紹介 「うちの子自慢」、「このごろおいしかったもの」を話題にして、自己紹介をする。	
展開 1	5	3. 研修のルールについて（F 1） 4. 司会、記録を決め、(①②で交代してもよい。) 具体的な進行の仕方を説明する（F 1）	ルールの掲示物 (ホワイトボード)
F 1		5. 話し合い① ○話し合い② ○話し合い③ *自由におしゃべりをする。 ・「賛成」「反対」「分からない」の意思表示を理由とともに話す。 ・それぞれの立場から突っ込んで考えを聞いてみる。 ・分からないといった人は最終的にどっちの意見になったか聞く。	尊重 参加 守秘 話の素材カード1~4
F 2	各15	6. 発表 ・5グループ程度、発表したいグループを中心に。 ・問題と思われる考え方については、修正の方向にコメントする。 ・ホワイトボードに発表内容を書く。（F 2）	記録用紙
まとめ	10	7. おしゃべりをふりかえる。 *「おしゃべりカード」プロセスシートの記入 *プロセスシートを元に、おしゃべりの感想など述べてもらう。	プロセスシート
F 2		*今日の研修の意味を伝える。	(資料配付)
F 1	5~	・自分が何を根拠に意見を言っていたか（経験や偏った見方をしていなかったか）。→資料 世界人権宣言 子どもの権利条約	世界人権宣言
	8	・自分の思いを言う、人の意見を聴く、納得できる話し合い等は自他の人権が尊重されていると感じると可能であることを伝える。 ・家庭（家族）や地域での人とのかかわりについてふりかえるよう促す。 ・相手が子どもであっても、その権利を尊重しつつ関わっ	子どもの権利条約 権利とは (人権教育課HP資料)

実践してみましたコーナー その③ おしゃべりカード

	<p>ていくことが大切であること、さらに親には子どもの育つ権利(子どもの権利条約第5条)を保障する必要があること。</p> <p>*まとめ(F1 F2が一言ずつ思いを伝える)</p> <p>F1からは、「権利とは」の資料について、一言添える。</p> <p>○アンケート記入</p>	
2		

ファシリテーター：F1 学校PTA役員 F2 県教育委員会事務局職員

実践してみましたコーナー その③ おしゃべりカード

③ 実践してみてもいい(次の方へのアドバイス)

- 今回15分×2テーマ(30分)を取り上げ、グループで話し合いをしましたが、状況により話題が尽きているようであれば、テーマを増やすこともできます。
- タトゥーやフィルターの用語が分からない方があれば、事前に説明するといいでしょう。
- 「職業の自由」「プライバシーの保護」などカード例の説明があると、「権利」との関係を意識づけることにつながります。
- プロセスシートは、書いてもらうだけにして、見せ合わないで意見交換をする中で自分自身を振り返ることがいいようです。
- 「子どもの権利条約」をもとに、カード例の内容について再度振り返ることは、今後の家庭での子どもとの関わりを考えるうえでヒントになるようです。

4 参 考

2 おしゃべりカード

～その時あなたは、どうする? どう思う?～

話の素材(学習資料)

どうする? その1

あなたのお子さんが、ピアスをしたいと相談してきました。あなたは、どうする? どう思う?

どうする? その2

あなたのお子さんが、スポーツ少年団に入りたいと言っています。スポーツ少年団に入るには保護者の送り迎えが必要ですが、あなたは仕事で送り迎えができません。そんなときあなたならどうする? どう思う?

どうする? その3

あなたの子どもが、中学を卒業したら職人の道をめざすために高校は行かないと言っています。あなたは、どうする? どう思う?

どうする? その4

高校の入学祝いに携帯電話を買いました。本人に責任を持たせるためにも、フィルター設定をせずに契約しました。しかし子どものことが心配となり、携帯電話を見てしまいました。あなたは、どうする? どう思う?

フィルター設定
フィルター設定とは、携帯電話やパソコンから一部のサイトにアクセスできなくさせることで、携帯電話利用時などに行うこともできる。(フィルタリングサービス、又は「有害サイトブロック(制限サービス)」と呼ばれる。)未成年や18歳未満の子どもの危険なサイトにアクセスしないよう遮断することが主な目的である。

素材その _____

素材その _____

「おしゃべりカード」プロセスシート

この活動を通して

1. あなたは自分の意見を考えるとき、何を根拠にしていますか。(今までの経験? 聞いた話? そのほか?)

2. あなたは、どれくらい言いたいことが言えましたか?

不 充 分 ← → 充 分

気持ちに近いところに
印をつけてください。

★どのようなことからそう思いますか?

3. グループは、どれくらい聴き合っていたと思いますか?

不 充 分 ← → 充 分

★どのようなことからそう思いますか?

4. 自分の意見と違う意見に対して納得できる話し合いができましたか?

不 充 分 ← → 充 分

★どのようなことからそう思いますか?

5. おしゃべりの中で、自他どもの人権は尊重されていましたか?

不 充 分 ← → 充 分

6. このおしゃべりの相手が子どもであっても同じような話になったでしょうか?

★自分の考え方の特徴や、メンバーの考え方の特徴について気づいたことは?

★その他、気づいたこと、感じたことを自由に書いてください。

世界人権宣言



No.	権利の内容	No.	権利の内容
第1条	人間は自由、みんな大切な仲間だ	第16条	2人の合意で家族をつくれる
第2条	みんな平等、差別はダメ	第17条	誰もわたしの財産を奪えない
第3条	生命、身体の安全が守られる	第18条	信念・信仰は自由だ
第4条	奴隷・苦役はダメ! 絶対	第19条	自由に語れる、自由に聞ける
第5条	拷問・非人道的取り扱いはダメ	第20条	集会を開ける、サークルを作れる
第6条	ルールは人間の大切さを前提に	第21条	ルールを決めるのに参加できる
第7条	ルールは差別を認めてない	第22条	社会はみんなの人間らしきを守ってる
第8条	困った時は助けを求められる	第23条	自由に豊かに働ける
第9条	取り調べはきちんとした手続きの上で	第24条	しっかり休憩できる
第10条	裁きは公正に	第25条	健康第一
第11条	容疑者=犯人とは限らない	第26条	良い教育を受けられる
第12条	プライバシーが保てる	第27条	文化を楽しみ、文化を創れる
第13条	住みたいところに住める	第28条	権利と自由の実現を社会に求められる
第14条	危険なところからは避難できる	第29条	自分の権利は他人の権利を尊重しながら
第15条	国籍を持てる、国籍を選べる	第30条	他人の権利を奪う<権利>はない

資料2 子どもの権利条約について(参考)

子どもの権利条約のあらまし

我が国が平成6(1994)年に批准した児童の権利に関する条約(子ども権利条約)では、子どもにかかわる全てのことは、子どもにとってもっともよいことは何かを考えて行われなければならないと定められています。
また、子どもの持つ権利が約40条あげられていますが、それらは以下の4つに大きく分けられます。

生きる権利

- 病むことのできる病気などで命を奪われないこと。
- 病気やけがをしたら治療を受けられること。



育つ権利

- 教育を受け、休んだり遊んだりできること。
- 考えや感じることを自由が守られ、自分らしく育つことができること。



子どもの権利

守られる権利

- あらゆる種類の虐待や子どもの幸せを奪って利益を得るようなことから守られること。
- 障がいのある子どもや少数民族の子どもなどは特別に守られること。



参加する権利

- 自由に意見を表明したりすることができ、子どもの発達に応じた意見が考慮されること。
- 集まってグループを作ったり自由な活動をしたりできること。





【人権教育をめぐる動向】その2 「権利」＝「正しい」ということ

前回(vol.1)は「世界人権宣言」をテーマにしましたが、今回は改めて「そもそも権利とは何か」という点について、少々長くなりますが、高校の教科書『高校政治・経済』(実教出版)の「第1章 民主政治の基本原理」第1節「人権の世紀」の記述を紹介しながら確認しておきたいと思います。

「権利」と「Right」

【実際の教科書本文は白黒です】

「人権」は、英語でいえば、“Human Rights”の訳語である。しかし、「人権」と“Human Rights”が、本当に同じ意味かというと、どうも両者にはかなりのへだたりがあるように感じられる。その原因は、そもそも、英語でいう“right”に「権利」という訳語をあてたことにありそうである。“Right”という英語の言葉のもつ意味と「権利」という日本語の言葉のもつ意味は、語感的には相対するがある。そして、このことが、じつは、日本における「権利」あるいは「人権」に対する人々の意識に、微妙に影響を与えていると考えられるのである。

英語の“right”という言葉には、「権利」のほか「正しい」という意味がある。「ほかに」というのは、じつは正確ではない。日本語では「権利」と「正しい」という別の意味を与えられているが、英語の“right”という言葉がもともと2つのちがった意味をもっていたわけではない。“Right”の本来の意味は「正しい」という意味である。だから、日本語で「権利」と訳されている“right”とは、本来は、「正しいこと」という意味なのである。Right(権利)はright(正しい)だからright(権利)なのである。これが“right”という言葉の、そもそもの意味である。ところが、日本語の「権利」という言葉には、「正しい」という意味は含まれていない。逆に、「権」という言葉は「力」(power)という意味を含んでいるから、「権利」は、自分の利益を力づくでおし通すといったニュアンスをもつ。だから、「権利ばかりを主張するのは問題だ」といわれたりする。しかし、この命題の「権利」を“right”におきかえてみれば、それが成り立たない命題であることがすぐわかる。「right(正しいこと)ばかりを主張する」のに何の問題もないはずだからである。

人間として正しいこと

「権利」は英語で言うrightの訳語であるから、その本来の意味は、「正しいこと」という意味である。したがって、「人権」つまり“Human Rights”とは、「人間として正しいこと」という意味になる。この、“Human Rights”の本来の意味は——日本語の「人権」という言葉にはそういう意味が含まれていないだけに——、つねに意識されなければならない。

このことが意識されていけば、人権侵害は、「人間として不正なこと」つまり人間としてしてはならないことだということが、容易に理解されるであろう。逆に、また、人権の主張は、それが「人権」だから(憲法に書かれてあるから)というのでなく、「人間として正しいこと」だという主張でなければならない、ということ、つまり、権利を主張する者は「正しさ」を弁証する責任がある、ということも、理解されるであろう。

この場合、何が「人間として正しいこと」かは、人によって判断がわかれることも多いであろう。それぞれの人の価値観、人生観、世界観によって、「正しさ」の判断基準は当然ちがってくると思われるからである。しかし、そうであるからこそ、それぞれの人の異なった価値観、人生観、世界観を正面からぶつけ合うことが必要となる。そして、そのことを通じて、「正しさ」についての社会的コンセンサスが形成されてはじめて、本当の意味で日本社会に人権価値が根づくこととなるはずである。

何事も基本を大切にしながら取り組みたいものです。「正しいこと」の実現に向けた実践として人権教育があるということを確認しながら取り組みたいと考えています。



カード例について話し合い



人権教育研修会の様子